

雫石町小学校適正配置検討委員会
第3回検討委員会議録

平成24年11月14日

雫石町教育委員会

平成24年11月14日雫石町小学校適正配置検討委員会を招集した。

場 所 雫石町役場2階201号会議室

時 間 18時30分～20時30分

1. 出席委員

委員長	立	花	正	男
副委員長	高	橋		繁
委員	平	子		圭
委員	足	立	頼	子
委員	坂	井	和	久
委員	栗	木	将	史
委員	櫻	田	正	行
委員	中	南		博
委員	志	戸	前	正勝
委員	村	田	賢	一
委員	煙	山	和	彦
委員	村	田		崇
委員	高	橋	與	右衛門
委員	小	赤	澤	直子
委員	吉	田	敏	子
委員	佐	々	木	登和子

2. 欠席委員

無し

3. 事務局から説明のために出席した職員

雫石町教育委員会教育長	吉	川	健	次
雫石町教育委員会学校教育課長	高	橋	啓	二
雫石町教育委員会学校教育課主査	田	辺		茂

4. 書 記

雫石町教育委員会学校教育課主任	坂	井	一	博
-----------------	---	---	---	---

5. 開会宣言

田辺主査 お揃いでないですが定刻ですので始めます。開会を学校教育課長からお願いいたします。

高橋課長 おばんでございます。ただいまより第3回雫石町小学校適正配置検討委員会を開催します。よろしくお願いいたします。

田辺主査 教育長挨拶。よろしくお願いいたします。

教育長 お忙しいところお集まりいただき大変ありがとうございます。3回目の検討委員会の協議内容は事前に案内文書と一緒にアンケートを配り、それを元に協議してもらいたい。雫石町の小学生にとって理想的な教育環境を整えるにはどうすれば良いか。1つは学校規模。2つ目は1学級あたりの児童数。3つ目は将来の学校数。それから学校まで徒歩での通学距離等ご協議いただきたい。本音と建前というか理想的なものから考えたもの、地域住民としての意見、色々食い違うところもあるはず。それから会議議事録を発表する場合、個人が特定されないよう発表したい。考えていることを忌憚ないご意見を発表いただきたい。雫石の子供達のために慎重審議をお願いし、挨拶とします。

田辺主査 続きまして、3. 委員長挨拶ということで立花先生お願いいたします。

委員長 第2回は仕事の関係で欠席させていただきました。申し訳ございません。前回の議事録等読ませていただき、皆さんから色々なご意見があがったことは承知・予習していた。今日は色々なご意見を伺い、今後の委員会として意見をまとめていきたい。今日もよろしくお願いいたします。

田辺主査 4. 協議 これからの進行は委員長の進行でよろしくお願いいたします。

委員長 今日の進め方です。案内と一緒に同封された、問1～問4それぞれについて皆さんの考えとその理由を最初に発表していただく。一気にではなく1問ごとにそれぞれの意見を聞き、質問等あればそこで詰めて参ります。付け加えることもあると思いますが、皆さんにご意見を申し上げます。では問1。

委員 学校教育課長に質問。アンケートが突然届いて正直驚いている。私も仕事でお客様にアンケートをとったことがあるが、私達はアンケートをお願いしたら一度回収してまとめてから会議や議論をする。今回会議後の回収だが、その後どのような形で何か使用する考えがあるのか。

高橋課長 この会議だけで使う。まず検討する一つの焦点がないいつも話がまとまらない可能性があるので、焦点を絞りながらやっていきたいということで。その時にすぐ意見を出せと言われても出ない場合もある。項目ごとについてということで、前もって自分の意見をまとめていただくつもりで今回出した。

<各委員より問1のアンケートの回答。ここから補足部分を抜粋>

委員 私は今回アンケートを無記入とさせていただきます。個人的な見解を書くと、

後々誤解を生じる恐れがあると思った。どうしても記入が必要であれば、小学校保護者全員にアンケートを配布し、集計結果を記入し提出とさせていただきます。個人の意見をここでは控えさせていただきます。

委員 今回私個人の意見では決められず、全保護者からアンケートを取った。項目以外の意見が出され、人数は関係ないのではという答えがあった。結局その町村、地域の学校数は色々な角度で見て、その地域にとっていい学校となると思うので、役場の方で検討していいのではという意見があった。

委員 私もどうしても一人で決めかねた。全父兄にアンケートを見せ、みんなから聞いた。意見が全部分かれ、みんなが意見を言ったが、やはりそれぞれ個人の見解があるし、それも否定できるものではなかったので、私が思っている範囲での発表とする。

委員 理想とか望ましいという言葉に何の根拠があるかわからず、非常に困惑。

委員 これからの教育というものはどのようにしていくか色々調べたり、聞いたりしたことが多く、その中で大きく言葉にできるのは、グローバルと多様性という言葉が盛んに教育内で使われる。グローバルとは、これからどの方面に行っても通用する人間。多様性とは、様々な能力を持った人がそれぞれたくさんいて、存分に刺激し合うことで人間がどうやったら活きるかがわかる。そういうことが一般的に言われている現状と認識した。

<アンケート補足発言ここまで>

委員長 人数について問2と係わるが、色々な意見を伺いありがとうございます。色々な皆さんのしがらみや背負っているものがあり、色々な意見が出たが、個人的な意見でも、色々な方からの意見もざっくばらんに話していただき、それに責任が来るものという形ではなくご意見いただくように。学校教育は明治5年から100年以上続いた中で、あるいは旧市町村単位の中でそれを背負っているの、それを変えるか変えないか、これから閉校するかしないかという議論。非常に大変な議論だということは我々それぞれ受け止めていると思う。私の考えもあるが、答えるとその方向に行ってしまうので、ここでは控えさせていただきます。それでは問2について何点か挙げていただきたい。

<各委員より問2のアンケートの回答>

委員長 ありがとうございます。ちょっとこれは事務局の悪い質問ですが、1番と2番に先程もあつた関係で、1学級は学年の人数によって分けるので、例えば学年が60人だと2クラスになり30人。80人だと40人にしなければならない。

高橋課長 一番は先生が授業の中で子供達に目が行き届く人数はどのくらいかという部分を皆さんどう考えるかこちらで把握したかった。もう1つは文科省で5年計画で35人学級にすると。今は1・2年生だけが来年度は3年生も35人学級にしていく形で5年間かけて小中学校全学校で35人学級とする学級編成

間の改善計画が今示されている。35人といってもどうかと。今までの40人も確かに多く、それで国としても35人にしたかなと。ただ、今まで雫石で35人超えるところは雫石小以外にほとんどいなかった。そういった部分も踏まえ、もし今までの現状から皆さんやはり10~30人の間の回答が出ると考え、あとは例えば多い場合はやはり、ITの授業も進めなければならないかなと言った部分をこちらでも把握したい。

委員 問1,2は同じだと思った。問2を考えれば当然全体像も出てくるのではと。
高橋課長 高学年は1学年2学級以上という考え方も出てくる。多分1学級あたりだと1学級の人数になるので、例えば2~3クラス必要と全体の規模を考えてア.の問1になる。要するに問2だと1クラスだけということになり、規模的に上はエ.であれば2クラス以上の学校規模が必要と捉えたいと思っていた。

委員 この問1,2は非常に共通性があるが何となく裏に設問者の私的なバックベースを感じる。本来それぞれの理想の人数を書かせれば的確な意見が出るが、こうすると設問者の狙いがあるかなととれる。そうではないか。

高橋課長 そういったものはない。

委員 雫石町の各地域の今の子供達の人数は絶対数値決まっている。その中でどう学校配置するかはおのずとまとまる所にしかいかない。その辺の認識をきちんとするために必要。この町全体をどういう配置にするか、これまでの地域性をどう捉えていくかで全然違った形になるのでは。

高橋課長 あくまで今回の部分は地域性はなくす。今回は、子供達にとってどのような教育環境がいいかまずここで出し、それから地域性という部分に入っていくべき。でないとも最初から地域性だと議論ができないのではと思っている。

委員 でも直接的な数字が出ると、やはり意味深な部分があるようなイメージで受けられる部分があると思う。

委員長 1学級の理想人数は色々な考え方だと日本は40人。国の規定だがそれが多すぎる、35人にしろと色々言われている。そうすると学年の人数でそれを割らなければならない。35人を1人でも超えると2クラスにする。35人までだと1クラス。その動きなのは。町独自で35人に達しないが2クラスにしようということができるかどうかは予算に関係してくるが、その辺が本当に全部20人にしようとなるのは、実情は今公開したので、ぜひそういう形でということをお願いします。何かこれについてみなさんから。

委員 例えば3クラスは最低何人必要か。

委員長 今、35人なので70人で2クラス。71人になると3クラスです。

委員 3クラスにしなければならないのか。

学校課長 105人です。

委員 最低の倍数になっているのか。

委員長　　そうです。1クラス35人が上限で70人で2クラス。70人超えて105人までは3等分。105人過ぎると4クラスにしなければなくなる。

委員　　分かりました。

委員長　　あと人数に関して何か。本当に少なければいいかと言うとそうでもなく、多すぎても40人学級なのか、となるので人数については町独自でやれるところと国の基準との係わりになってくるし、学年で何人になるかも関わってくると思う。今日の資料を見てもらうと、雫石町の平成30年までの全体の人数が資料で出ているが全員でもそれぐらい。それを35人で割るとクラスも出るし人数も出てくる。例えば雫石小は平成25年だと60人。35人で割ると2クラス。大体30人ぐらいか、1学年の人数は機械的に分けるとそうなる。

<各委員より問3のアンケートの回答。ここから補足部分を抜粋>

委員　　学校の後学童に行く子供もいて、各学校からスクールバス等で子供達を戻してそこで地域の方と触れ合うことも一つの方法としてどうか。個人的な意見だが。

委員　　30年スパンで考えればまた減ると思う。最終的に1校になるなら1校という考えも個人的にはありかと。将来の住民登録的な部分の予測というのは実際子供から見ると6年先までしかわからない。将来的に産業構想とか地場産業の進展で社会情勢が雫石で変わる要素がなければ、人口は統計上どおり目減りするし、子供の数もよほどの転入がない限り。

委員　　自分が小学生だったら5校以上を希望する。それ以下になって仮に1~2校になれば、水泳記録会も陸上記録会もやる意味がなくなる。5校以上ないと面白くない。私達の時他校のあの速い子に勝つために一生懸命やって、会うのも楽しかった部分もあり、それが少なくなれば子供達つまらなくなるかと。どうせあの子には負けるというのが同じ学校の中で出てくるのかなと。

委員　　問4にもかかるが、小学生だったらスクールバスではなく歩いて道草食いながら通うのが小学生ではと思う。バスに乗っての行き帰りが小学生かなと。そう考えると今のままでもいいかとも考える。

委員　　私も基本的に子供達は歩ける距離の学校に行くべきかと。うちの学校もスクールバスの子達がいるがいくらかでも歩かせたい。やはり子供達は歩いて登下校する中でいっぱい学ぶことがある。ただこの検討委員会の中で出たことも考えると、集団としての学びとかふれあいとかもやはり大切。そこ抜きにして学校生活はないのではと考えるとある程度人数は必要かなと。地区ありきで地区に何校と書かれると困る。今、就学時健診が合同で行われるようになって3年目。2~3校がうまく相談してやっている地区は統合してもうまくいくだろうと。そうではなく相談という部分を抜いてとにかく合わせてくれという感じの地区もある。そこが統合しても一緒にやっていく。基本的な

姿勢が保たれる、そういう統合であって欲しい。

委員 先にも出ましたが、橋場小とか小さい学校をコミュニティー施設にして高齢者と一緒に学童に参加しながらやれる形をとれたらいいと思っている。

委員 段階的にどうするかを考えないと一気ににはできない気がする。やはり子供達の絶対数が変化するので、もしかしたらそれをトータル的に全町1校にせざるを得ない時期がもしかしたら来るかもしれない。

委員 私は5校がいいと思う。特色のある学校はあってもいいし、学校同士がお互いに刺激し合う。そう考えるといきなり4校ではなく、5校にしてその間に私はあの学校に行きたいという境界線を外したブロックがあってもいいのではと。盛岡はそれがある。高松小と山岸、あるいは仁王。ここがどこに行ってもいいと。5校ぐらいあってもいいかなという、勝手な判断ですが。

<アンケート補足発言ここまで>

委員長 これについての議論が最終的にこの委員会の目標。また色々な意見を伺いたい。地域や地域コミュニティーについて色々な話があったので、それについて最後にもう少し議論したい。もちろん問3との係わりも出てくるが、子供達の通学、歩いてとありました。どれぐらいが限界か。小学1年と6年では体力も違うので状況で違って来るかもしれないが、これらを踏まえて子供達が歩いて通える範囲を決めるような立場で、どう考えるのか伺いたい。

<各委員より問4のアンケートの回答。ここから補足部分を抜粋>

委員 雫石町は登下校の安全指導員の方がいる。それをわかっていながら変質者は異常な行為をする。それを考えると子供の安全を本当に守るためには、地域全体が本気にならなければ駄目だと思う。そうすると一概に何km以上はバスとかは言えない。いくら近くても寂しいところはあるわけで、500mしか歩かなくてもいい所でも危険性は付きまわっている。そういう社会だから地域の実情に沿った対応策を多様に考えていかなければ、東北地方の安全は単純ではない気がする。実情に合った対応策をとるほかはないのでは。

<アンケート補足発言ここまで>

委員長 色々な意見が出ました。私はあまり長くない方がいいと思う。実はうちの子が小学校の時3kmだった。お父さん1回歩いてみて、と言われたことがあって。親達は車でしか動かない。大変さを身にしみろと息子に言われたことがある。私も学校でこういうことがあったが、1.9kmだと乗せないで2kmだと乗せる。この100mの違いはなんだ、融通が利かないのか、と。ではどこまで乗せるかとなるとまた難しくなってくるので、スクールバスを出すとなればその辺についても検討事項になってくる。500mおきにバス停を作って、乗りたい人は乗りなさいというのがいいとも思う。何km以上というのはおいといて。個人的な意見です。皆さんから苦しい中で書いてきていただき、意見を

言っていただいた。何か事務局から課長からありますか。

高橋課長

スクールバスは通常小学校 4 km、中学校 6 km という線を一応引いている。これについては学校の適正規模の中で小学校 4 km、中学校 6 km の範囲以内と法的な部分にあるのでそれを準用する形で線引きをしてきた。そうでないとどこで線引きしても先ほどのように 100m 違うと、ということになる。今は定員になるまで、できるだけぎりぎりの人数の子供を対象に乗せると弾力的に運行している。ただそうやってくると、近くなってくる人達の要望が出てくるのも事実。考えるとすれば全体で考えないと何ともならない。誰でも乗れる、循環運行まで考えていかなければならないかなと考えていた。

委員長

何か皆さんから質問等あればどうぞ。

委員

公共交通協議会の会合で、スクールバスとかつては路線バスが町内を走っていたが、デマンド交通について、あと医療関係の病院を結ぶ路線もあって、確か医療の方がバスの老朽化で後嗣を迎えた。それからデマンドタクシーの利用率の向上にはどうしたらいいかと。むしろ路線を増やして町民の交通手段を支援していく話があった。よくわからずにその会に出たが、今日意見を頂ければ次の会合等で PTA の立場として要望なりアドバイスはしていきたい。

委員長

今日の質問事項は子供達にとって理想的な教育環境を将来的に与えると。先ほどの議論に出ましたが、結局 100 年前に出来上がったシステムで色々動いていて、すると次の 100 年とはいかなくても、どれぐらいのことを考えるかを含め、議論していかなければならない立場。結論を出すとは今日は思っていない。もう少し皆さんの意見を伺いながら時間まで議論していきたい。

委員

問 4 ですが、学校の配置関係を決める方が先では。それを決めて、通う子供達の居住形態を把握して、ではどう通うかを考えた方が合理的な気がする。

委員長

あと皆さんから今後こうしてほしいとか何かありましたらお願いします。

委員

中央公民館での町政懇談会時に統合の話が出た。統合したら子供通わせられなくなると言った親御さんがいた。でも私は論とすれば主客転倒ではないかと。学校どうするか、子供達どうするか決まってからではそれに対してどういう会話をするかということが来るのが順序だと思ったので。

委員

学校代表なのでこういうことを言っていないかわからないが、前の話でも皆の意見を吸い上げて雫石町としての、ということでそのような頭で来たが、問 3 で何校という辺りで詰めたのかなと。もちろんそれなりに必要な場合もあると思うし、やはり子供達を考えるということだと思うので、子供達にとって統合が必要であれば統合したなりにメリットのある、もちろんデメリットが出てくるのは当然ですが、よりメリットのある形で子供も親も地域もなるほどなと思うよう進めばいいと思う。

委員長

歩いて通わせるというのもあり、そうするとさっきの集団が少し小さくな

ることもある。全てのそれを加味しながら決めていかなければというのはその通りだと思う。また議論いただければ。あと皆さんからありますか。

委員 先ほど委員長からもあったが、教育は100年前から始まっているのはその通りだが、今の体制が100年前からあったわけではないのは、認識が必要かなど。今これだけこう変化の激しい時代で先はなかなか読めないということで、あまり長期的なことを予測すると大変になるかなど。比較的早い段階での見直しをしながら修正していくことを考えた方がいいかなとも思った。

委員長 ありがとうございます。その通りだと思います。あと何かございませんか。

委員 今回、在校生の家庭にアンケートを見せて聞いたが、できれば内容を変えた状態で平成30年まで今対象になっている子供達、父兄に一体どう思うかを聞いていただきたい。私も確かにこれを見た時、なんだこれと思ったのが事実。例えば、理想的な学校規模ではなく今の学級の人数についてあなたはどう思うか、という内容とかに変えていただきたい。学区がどうこうとか学区の人達がどう思うかではなくて、すべて混ぜた状態で雫石町全体はどう思っているかを出してもらえれば。恐らく地域の人達に同じものを出せば頭から反対なはず。絶対学校がある所に人が集まるというのはこれは間違いないことだと思うので、とりあえず今生まれている子供、今年生まれるであろう子供、もしわかればその親の人達にもアンケートをとっていただければと思う。

委員長 意見ということで後で検討していただければ。あと何か。それでは事務局よりアンケートの説明、資料説明をつけてお願いします。

高橋課長 今回のアンケートの質問ですが、例えば26年度に入る子供達の親御さんからアンケートをとるとなると、雫石小58人、大村小1人という。それを混ぜるとほとんどが雫石小の意見になるが。

委員 今ここに載っているということですか。

高橋課長 いえ。では26年度に入る1年生の親を例にとる。再来年度入る数が121人。そのうち半数が雫石小。それをシャッフルするともものすごい差が出る。

委員 学区がどうこうではなく、これから小学校に入れるであろう子供達の親がどういう考えを持っているかが知りたい。確かに1人の学校を例にとって、ここに学校がなければ最初から違うところに行くと考えたたった1人かもしれない。それはわからないから、とにかく学区関係なく全部に出してそれを1回まとめて結果になるかを知りたい。

高橋課長 アンケートの中身は検討しなければいけないですね。資料についてはあくまでも参考資料ということで。例えばの話、全体を1校にした場合はどのくらいの形で何学級になるか。あくまで参考として考えてみたので参考にしていただければ。もう1つ、皆さんに小・小連携の交流会の資料も入っています。これ同じものではありません。AグループBグループある。28日が御明

神小を会場に6校の6年生が一同に会して授業を行うというもの。29日は七ツ森小を会場に4校の学校が集合して合同の交流会をやる。日程等々は裏に書いております。もし参観できる方がおられたら子供達がどう交流しているかを見ていただければいいかなど。参考までにお渡したので都合つく方はご参観いただければ。それから年4回の計画でしたが、あと1回で提言をまとめるのは大変かなど。ですからあと数回開催したいと思いますのでよろしくお願ひしたい。次回は12月中に開催したい。出来るだけ早く通知しますの
でよろしくお願ひします。次回提言が決まればあとは開催しません。

- 委 員 父兄へのアンケート。数を出さないで、父兄として何人学級が希望か、言
いたいのはそういうことですよね。
- 委 員 そういうことです。まるをするのではなく。
- 委 員 子供にとって何人学級がいいかという聞き方をしない、はっきり言って私
意的なイメージが裏にあるのではと思う。何となく引っ張っていくような。
- 委 員 まとめてもらった方が全員でなくても。例えば、父兄は30人学級を望んで
いる、ということになると思う。
- 高橋課長 平成22年時点の保護者のアンケートはまとめてあります。
- 委 員 正直な話、これから入る子達だと思う。
- 委 員 こちらは実際に学校に通っていて、こういう状況をわかっているのアンケ
ート結果。これから入る、どういう状況で子供が教育されていくかをわから
ない状態でアンケートをとる、ということですね。
- 委 員 そうすれば植え付けられないイメージの中で書けるのではと。非常にまと
めるのは大変かもしれないが、それが本当の生の声ではないかと。
- 委 員 一番いいのかと思います。
- 高橋課長 アンケートとるのはいいですが、そう短期間でとれるものではない。前回
も3ヶ月以上かかりました。それでも学校を通してお願ひしたからそのくら
いで済む。これを手紙等で出せば、結構かかる。
- 委 員 保育所や幼稚園に頼めないのか。
- 田辺主査 全てを把握するのが今度は大変。全員が町内の保育所に入っているわけ
ではなくその児童全てをどこの保育所か作業をしなければならない。通ってい
ない子がいるとどこかという話にもなる。その作業に逆に時間がかかる。
- 委 員 配るのに時間がかかるということですか。
- 田辺主査 依頼する前の段階に時間がかかる。作ってすぐ発送はできるが、どこにい
るかを把握するのに発送まで余計な時間がとられる。
- 委 員 でも最終的にそこの声を聞かないときちんとした結論は出ないかなと思う。
- 田辺主査 ただ、今度は1学年の次の子達だけでいいのかという話になる。
- 委 員 私的にはできれば今生まれてくる子達に。どこまで対象になるか。

- 田辺主査 そこがすごく難しい。1学年の子達の意見だけで判断できる材料になるのか。2年前は通っている全学年の児童から聞いたものが同様のものが入っている。
- 委 員 今のPTAの方々でも十分体制はわかるのでは。PTAの方々知っているわけだから。何か集まるときに直接書いてもらえばいい。体制は私読めるような気がする。これから入る人より今入っている人達、多分そう思っている父兄の方もいるし、もうこれでいいと思っている方もいるでしょう。不満があるなら何人ぐらいがいいかという段階で書いてもらえばよりの確。
- 委 員 いただいた2年前のアンケート結果を見ると現役の人達の考え方はある程度わかっている。今分からないのは未就学時の保護者。
- 委 員 そこまで広げるとこれはなかなか厳しい。1年生になる見込みの親御さんは名簿あればある程度分かると思うが。下ろしてもこの辺位まででは。
- 委 員 もう1つ確認したいが、この委員会の結論の持っていく方が、確かに1回目はこの委員会で決めたことがその通りになるわけではなく、1つの見解という話に聞いていた。1つの意見と言っても、1つにまとめた提言の仕方もある。複数の意見も出たというまとめ方もある。追加で今後さらに町としてこういうアンケート調査等やってくださいと付記した形での提言、結論というものもあると思う。それら考えると、あと3~4回やって何が何でもまとめようとするのかというのを感じてしまったので。
- 高橋課長 例えば数件のパターンを出して、この場合はこういうメリットデメリット、こう統合するとこういう課題なのでどう解決する、というパターンを出していただいてもいい。こうしなさいではなく、雫石町と考えれば地理的な部分、歴史的な部分を踏まえてこのような形と出してもらってもいい。
- 委 員 そうなると恐らくそこの部分の作業は事務局がやることになる。あと何回でどうまとめていくのか。
- 委 員 これまでの3回でかなりの意見は出てきた気がする。あとはまとめ作業で。
- 委 員 私はそういう感じに思ったが、委員長はどのような考えか。
- 委員長 提言については、1つのものとしてまとめてこの委員会でこう考えたのでこうやってください、というのは個人的には無理だと思う。こういう意見の中で例えば、1校にまとめる場合はこういうデメリット。このデメリットについては町として1つの改善が欲しいという意見がある。例えば2校にする場合にはこういうデメリットあるし、メリットあるというものをね。このデメリットについて町としてどのぐらい改善できるかという形で併記するような形になるのではと思っているが、その中でもし可能であれば、でも委員会実は4つぐらいあるが、これは一番意見多かった。そういう形での提言になるかなと考えているので、今後そういう面での1つのパターンを作り、これは駄目、これはいいとずっと議論していかなければと思っている。今は適正規模とか

色々な面で意見いただいたので、ではちょっと作ってみよう。こうなったらどうなるの、いや、こうなるとやっぱりうちは困る、通学に困る、子供達こう困るのではということを出してもらいながら、という形になると思う。その辺はこれから作るとして、事務局であと1回では無理ではというのであと数回お願いしたい。皆さんのご都合もあると思うのでいかがでしょう。

委 員 員 員 員
あと何回か集まることで、その間や最後に地域の人達との意見交換会とかを設けるといふ考えはあるんでしょうか。

委 員 長
それは事務局いかがでしょう。

高橋課長
地域まで入ると多分まとまらない。提言をいただき、その提言を元に教育委員会で方針を出してそこから地域に入る方がよろしいかと思ひますが。

委 員 員
ただ現実、地域との交流は各地区色々な場面であると思うが、例えばこの前、社会福祉協議会主催の地域懇談会みたいなものを各地区行ったとか、色々な場面の中で、今適正配置の話し合いやって、来年4人しか入らない学校がある、とか、6年経つと36人しかいなくなる、という話をしたり、今の子供達かわいそうだから西山小学校にでもした方がいいか、という話の流れになって、逆に我々よりも子供達のためを思つてそういう意見が結構出てくるので、各委員さんが各地域でそういう意見を集約すればいいと思ひます。

委 員 員
次回までに資料を作つて欲しい。現状の雫石町の管内図に学校の所在地を入れていただき、例えば1.5 km圏、2 km圏等円を引いてもらった図があると非常に見やすい。学校の所在地をつけていただいたものを中心にして2 km圏を引いてもらう。言葉の説明より目で見ると非常にわかりやすい気はする。

委 員 員
1回目にもらつていたものにコンパスで書けばわかると思ひます。

委 員 長
今日の意見を踏まえて次回は整理しながら議論をしていきたい。今日は少しまとまりがない会になりましたがここで終了します。事務局お願いします。

6. 閉会宣言

田辺主査
ありがとうございます。では5. 閉会を学校教育課長よりお願いします。

高橋課長
長時間にわたり慎重な審議いただきまして大変ありがとうございます。これもちまして第3回目の雫石町小学校適正配置検討委員会を終了させていただきます。大変ありがとうございました。